

北海道手をつなぐ育成会 げっぽう

第740号

昭和39年3月13日第三種郵便物認可第10号(毎月1日発行・定価一部10円(会費を含む))

●発行日—令和元年9月1日

●発行所—社団法人北海道手をつなぐ育成会

〒060-0002 札幌市中央区

北2条西7丁目かでる2・7(4F)

電話 011-251-0855

FAX 011-251-0804

Eメール doikusei@air.ocn.ne.jp

●発行人—佐藤春光

印刷所 (株)北海道機関紙印刷所

記念講演

野澤和弘氏

『自分らしい生き方とは何か』

～自立と共生について～

名寄大会の目玉、

野澤和弘さんによる

記念講演。毎日新聞

記者を経て論説委

員、他にも大学客員

教授、本も多数出版

し、幅広い分野でこ

活躍です。

野澤さんご自身の体験談とともに、支

援の方法や合理的配慮について、とても

解り易くお話しをいただきました。

■アメリカ・シアトルでの講演

「15年前、障がい者への対応に絶望し

て日本を捨てアメリカに渡った、今どう

なっているのか貴方が教えてくれるの

か？」と障がいを持つ親に挑発(希望)

され、緊張しつつも話す機会を得る。

↓現在の日本の支援等を説明、「日本は

そんなに変わったのか」と驚かれ、帰り

たいと言ってくれた。しかし、アメリカ

は市民の温かな眼差し、家の広さが魅力

的だそう。

■イリノイ州での研修

アメリカでは障がい者のセーフティー

ネットに警察が入っている。それは、障

がいの特性を知らないことにより、ポケ

ットに手を入れただけで発砲してしまう

可能性があるため。



■警察庁への訪問

警察用冊子「知的障害のある人を理解

するために」を作成。しかし、なかなか

受け入れられず、3回目の訪問でやっと

配布が決定。27,000部の注文を受

ける。

その時対応した警察官。後に「実は自

分は3兄弟の真ん中で、上下に脳性マヒ

の兄弟が。小さい頃は近所の子ども達に

『骨無し』とからかわれた。家族旅行を

した時、両親が車から2人をおんぶして

外に出ていったが、その姿を見て自分は

車の外に出られなかった。そんな自分が、

野澤さんや本と出会い、巡り合わせのよ

うに思えてしょうがない。多くの人に障

がいを理解してほしいという願いが伝わ

った。」と話す。

警察プロジェクトではお母さん達が講

師となり、障がいの説明をする研修も行

っている。

■息子が出会った床屋

ハサミが耳元に触れるのがとても嫌

いな息子。昔、床屋で暴れ、椅子を壊した

ことも。

私はいつものように頭を押さえる。す

ると店主に「何やってるんだ、座ってな」

と。様子を見ると、少し切っちは嫌がる

ので、落ち着くまで待つ。少し切っちは

…この繰り返し。時間はかなりかかったが、見事に切り終えた。その床屋に息子はだんだん慣れていき、いつしか、暴れずに散髪が出来るようになった。

押さえつける以外の方法を考える。自

分に時間のゆとりが無く、待てないゆえ

に、身体拘束さえしてしまう。これは虐

待ではないか。

■行動障害と合理的配慮

「はるにれの里」には、151人中、

102人の「支援区分6」の入居者がい

る。とんでもない行動があっても、常に

その人の良い所、落ち着く環境を試みる。

職員と利用者で心が通じ合っている。

昼は穏やかだが夜は大暴れ。原因は？

月の光が影響していると判断。遮光カー

テンを使うと、夜も落ち着いていた。普段か

らのコミュニケーションがあるからこ

そ、より良い支援ができる。

■ベスト・インタレスト

好みや意思は変容していく。こればかり

食べるからと同じものを与えても、変

わることもある。決めつけず、何を望ん

でいるか探索を続け、本人自身による自

己決定を最大限に支援していく。

*いつか、本人・家族・支援者、みんなが

楽しみながら暮らしていける世の中に

なればいいなと聞いていました。

例えば話が面白く、難しいテーマを易し

く話され、気がつけばあっという間に

講演が終わっていました。

(取材 種田)

大会テーマ「楽しく働き、楽しく暮らし、自分らしく生きよう！」大会スローガン「真の自立とは何か！満天の星、北の大地、緑の里、名寄から」を掲げ、7月27日、28日、第64回北海道手をつなぐ育成会全道大会名寄大会が開催され、述べ、1400名に及ぶ参加者のもと、盛会のうちに終了することができました。育成会会員はもとより、多くの関係機関、市民の皆様から寄せられたご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。ここに、報告を兼ね、2回に分けて大会の様子をお伝えします。今号では、「記念講演」及び、本人大会分科会の内容を中心に編集しています。

今年も熱い「チャレンジ」

『ステージいっぱいロックンロール！』

初めて実施した北広島大会から数え、5回

目の開催となった「チャレンジ」。障がい者ポジティブにとらえ、社会の中でたくましく、仲間と共に生きていく意欲に満ちた言葉、そして、取り組みです。

名寄大会では、34名の方々が参加。1日目



は、「衣装と仮面づくり」。思い思いに飾り付けやペインティングを楽しみました。参加者の豊かな感性が、そのまま表現され、のびのびと、大胆に、まさにアート、芸術的でした。午後からは、「バケツとガムテープで太鼓をつくって、みんなでロックンロールをしよう！」と題し、当事者バンドとして有名な「サルサガムテープ」の「かしわ哲」さん「酒井まゆみ」さんをお迎えし、音楽ワークショップを開催。ギターとサックスの演奏に合わせ、太鼓をたたき、体を動かし、みんなノリノリでした。

2日目は、「もちつき体験」。実は名寄市は、もち米の作付面積が日本イチなんです！『なよろ名誉もち大使』である稲作農家の「及川友和さん」「水間健詞さん」による息の合った餅つきの見事なデモンストレーション。「見学だけではつまらないよ。」との呼びかけに応え、多くの人が杵を持ち、餅つきを体験。いつの間にか、希望者の長い列ができました。

その後は、つくったのお餅を試食。きなこ餅とごま餅に舌鼓を打ちました。

さらに二日間の最後を締めくくり、仮面と衣装を身に付けて、多くの大会参加者が見守る中、ステージ上でバケツ太鼓



を使つてのロックンロール演奏。会場は、大きな拍手に包まれました。ご本人達も支援者も、互いにやり切ったという達成感に、浸ることができた一時でした。

社会福祉法人名寄みどりの郷 施設長 横田 一真

*「サルサガムテープ」は、おかあさんといっしょ5代目うたのおにいさん、「かしわ哲」さんが、障がい福祉施設の利用者さん達に呼びかけ、立ち上げた「バンド」(26名)。全国各地で、障がい者と健常者が一緒に音楽活動を展開しています。



第1分科会 「災害」

情報が必要

全道大会本人大会に参加して、私は「災害」に関する分科会で、司会をしました。パンフレットの説明をしました。参加した皆さんの発言があまりなく、うまくいきませんでした。映像が映らなかったからです。

私は、焦りすぎました。どこのところをやっているのかわからなくなり、急いで元に戻

そうと、少し早目の休憩をとりました。

そして、助言者の名寄市社会福祉協議会の「鶴原さん」の話を聞きました。胆振東部地震の時は、名寄に帰るところで、旭川で足止めされてしまい、帰る手段がなく、帰れないことがあったそうです。

災害が起きた時は、ボランティアさんがいるということや、班があることがわかりました。

私は、災害の時に、情報がないと、どこに避難をするかわからず不安です。

札幌みんなの会 田中 陽子

第2分科会 「仕事について」

どんな仕事をしているの

「旭川働く仲間の会」・「当麻かたるべの輪」・「たるまえの会」と合同で進行を担当しました。「仕事についていろいろな体験や夢・悩みを語りあおう」をテーマにピアカウンセリングの方法を進めました。

シンポジウムとして、3名の方から「一般



就労について」「僕の仕事について」「私の体験・A型事業所について」の発表があり、参加者の皆さんは、真剣に話を聞いていました。

発表後には、質疑応答があり、「働いている中で、区別や差別されることがありましたか？」

「仕事でのやりがい」は？という質問に対して、「少なからず比較されることや、差別はあった。」「できることが多くなり、職員に褒められた。」「作業効率が良くなった。任せて良かったと言われた。」「と回答されていました。参加者の方からは、「今回の分科会で勉強したことを仕事に戻って生かしたい。」と感想をいただきました。

した。

分科会の参加人数が70名を超え、9つのグループに分けて話し合いを進めました。運営は大変でしたが、皆さんがとても協力的で、実り多い分科会になったと思います。

「旭川働く仲間の会」
支援者 岸田 真志



第3分科会 「法律・差別について」

強制不妊問題を中心に

第3分科会では、昨年問題になった強制不妊問題を中心に話し合いを行いました。私達「トゥモローくしろ」が、7月に旧優生保護法による強制不妊手術の判決について勉強会をしたので、発表しました。分科会では、参加者の皆さんが、真剣なまなざしで聞いてくれました。質問がたくさん出て、驚きました。そして、分科会の運営が難しかったです。たくさんの障害のある人が、被害にあっており、特に北海道の人が多くいることを参加者に伝えたいです。話し合いの途中から、支援者の石田さんが手伝ってくれて、司会としては助かりました。

トゥモローくしろ 杉澤 哲哉



第4分科会 「何でも語り合える分科会」

仕事・金銭・恋愛・趣味・悩み…

この分科会では、2つのグループに分かれ、テーマを決めずに、仕事やお金、趣味、恋愛、現在の悩みなど、ざっくばらんに話しをしました。私は初の司会進行ということもあり、最初は緊張してアタフタしてしまつたところもありました。しかし、時間が経つにつれて緊張もほぐれ、最後は時間が足りなくなるくらい盛り上がり、何とか無事に終えることができました。

普段なかなか会えない人たちと色々なお話しをすることができ、とてもいい時間を過ごせたと思います。来年も機会があれば、司会をやりたいです。

伊達わかば会 田中 勇弥



第5分科会 「思い出観光」

「星」に「ジンギスカン」に「ポッチャ」!

毎年、希望者が殺到する分科会です。今年はバス3台に、大会参加者97名、スタッフボランティア25名、計122名もの方々が名寄市内を巡る小さな旅に出発しました。

まだまだ観光地とは言いきれない名寄市ですが、そんな我が街にも「なよろ市立天文台きたすばる」という建物があります。ここには、北海道大学が所有する、国内最大級の口径(1.6m)を誇る、反射望遠鏡「ピリカ(愛称)」があります。惑星観測では、世界最大級の設備が備わっている研究施設にも関わらず、一般市民にも開放されている大変珍しい天文台。星と親しみ、学ぶ場が生活の一部となっている名寄。皆さんにもぜひ体験してほしいと、ご案内しました。

残念ながら、雨雲に覆われ、あいにくの天気のため、星を見ることはできませんでしたが、様々な望遠鏡の説明や、プラネタリウム鑑賞を行いました。

お昼は、「なよろ温泉サンピラー」にて名寄オリジナルのジンギスカン。美味しいお肉に感動。「帰り



に買って帰ろう」との声も聞かれました。

続いて、会場を「サンピラー交流館」に移動し、パラリンピックの正式種目である「ポッチャ体験」に挑戦です。

実は、この取り組みに向けては、市の障がい者スポーツ指導員にお願いし、ボランティアスタッフを対象にした「審判講習会」を開催してもらいました。その後も、繰り返し練習し、この日に向けて準備を重ねてきました。

大まかなルール説明の後、地区育成会対抗の団体戦へ。参加者の好プレーに歓声が上がりました。勝敗の結果に関係なく、交流も深まったのではないのでしょうか。

帰りに、参加された方から「名寄は(雰囲気)あったかいです。また、名寄に来たいです」と声をかけられました。

名寄での時間が、みなさんにとって良い思い出になったのなら、スタッフ一同、こんなに嬉しいことはありません。

社会福祉法人 なよろ陽だまりの会

長橋 純司



第一回合同会議 開催(報告)

7月18日、標記の会議が実施されました。活性化対策委員11名中、8名、ブロック事務局長12名中、9名が出席。理事会と重なり、やむを得ず欠席となった上川ブロック(電話取材にて対応)以外の11ブロック(札幌を含む)については、どちらかの役員が出席しており、ほぼ、道内全域を視野に入れながら、互いのブロック育成会の実情や、課題、それらの解決に向けた取り組みを交流することができました。

冒頭、佐藤会長より、「ブロック体制の整備を進め、地区育成会への支援を強化する。」とした「今年度の活動の最重点目標」について、『会議の回数が増すことはもちろんだが、活性化委員会との連携はもちろん、互いの活動を交流、学び合う場が必要。この合同会議は、そのスタートにしたい』と決意が述べられました。

その後、各ブロックの総会議案や、取り組みのチラシ等の資料をもとに、報告、交流が続ぎ、当面の方針(共通課題)として、次の3点が、全体で確認されました。



- ①全てのブロックが、体制の整備、課題解決を目的に必要な会議を開催しよう。(ほとんどのブロックが、年1回程度の総会)
 - ②全てのブロックが、合理的配慮、障がい理解、啓発キャラバン隊の結成をめざそう。
 - ③すでに札幌・遠軽・帯広・室蘭で結成)全てのブロックが、育成会カレンダーの完売をめざし、購入・販売計画をつくろう。
- (応募作品数 47↓81↓115作品 年々増)

読書・芸術・食・スポーツの秋へ スマッシュ決めて!

札幌市身体障害者福祉センターの体育館において、「第31回北海道障がい者卓球競技大会」が11月4日(月・祝)に開催されます。

この大会は、身体障がい、知的障がい、精神障がいの三障がいの選手が集う全道規模の卓球大会であり、毎年、100名を超える選手が道内各地から出場しています。

知的障がいのクラスは、療育手帳を所持する13歳以上(2019年4月1日現在)の方であれば、どなたでも出場できます。

ルールは通常の卓球とほぼ同じで、トーナメント方式により競技を行い、3位までに入賞した選手には、賞状が授与されます。

参加料は、

選手1名につき1,500円です。昼食弁当(600円)も別途斡旋しています。

会場は、札幌市営地下鉄東西線の「二十四軒」駅から徒歩3分の場所であり、体育館には観覧席も備えています。

この大会の成績を基に、来年の10月に鹿児島県で開催される「第20回全国障害者スポーツ大会」の卓球競技に派遣する北海道選手団の代表選手が選考されます。

参加申込書の受付期間は、9月11日(水)から10月11日(金)までです。参加申込書は主催団体のホームページからもダウンロードできます。

○主催団体

公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会

URL <http://www.do-syospo.or.jp/>

☎ 011-261-6970

FAX 011-261-6201

今後の予定

9月9日 第3回理事会

9月10日 全道大会 引き継ぎ会議
(名寄・北見・道育成会三役)

9月29日 本人の会 全道交流会

「みんなのわ in ひだか」



AIG損保生活サポート総合補償制度のご案内

安心を
お届けします

2007年4月に日本で誕生した知的障害児者と自閉症児者専用の保険です。

AIG損保の普通傷害保険(2018年1月現在の内容です。)

(知的障害者等福祉団体傷害保険特約セット)

病気やケガまたはその検査のため入院したとき

入院給付金(付添介護保険金、差額ベッド費用、入院諸費用、入院一時金)

他人にケガをさせたり、他人のものを壊して法律上の賠償責任を負ったとき

個人賠償責任保険金: 1億円または3億円(1事故あたり支払い限度額)

ケガをしたとき

死亡・後遺障害・入院・通院・手術保険金

地震・噴火・津波危険補償特約セット

病気で死亡したとき

葬祭費用保険金

取扱代理店) 株式会社ジェアイシー北海道支店
〒060-0051 札幌市中央区南1条東2丁目
8-2 SRビル4F <http://www.jicgroup.co.jp>
TEL: 011-221-7009 FAX: 011-221-1704
受付時間: 午前9時~午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

引受保険会社) AIG損害保険株式会社札幌営業支店
〒060-0003 札幌市中央区北3条西4丁目
1-1 日本生命札幌ビル17階
TEL: 011-204-7510 <http://www.aig.co.jp/sonpo>
受付時間: 午前9時~午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

北海道知的障害児者生活サポート協会
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目
かでの2・7 4階 北海道手をつなぐ育成会内
TEL: 011-251-0855 FAX: 011-251-0804
(A-000811 2019-12)

このご案内は保険の概要をご説明したものです。詳細は取扱代理店にお問い合わせいただくか、専用のパンフレットをご参照ください。

知的障がい・発達障がい
ダウン症・てんかんの
ある方のための保険

ぜんちの
あんしん保険
東京海上日動の
個人賠償責任補償付
少額短期健康総合保険(無告知型) 2016年創設

ぜんちの
こども傷害保険
東京海上日動の
個人賠償責任補償付
権利保護補償傷害保険(2016年創設)

特別支援教育を
必要とされている方
のための保険

病気やケガでの
入院



最高日額1万円

虐待・差別・逮捕に
対応



弁護士費用補償

誤って物を壊してしまう...



個人賠償
責任補償
最高5億円

※(総合生活保険(個人賠償責任補償))
引受保険会社: 東京海上日動火災保険株式会社

日常生活でケガを
することが多い...



入院・通院を日額保障

トラブルに巻き込まれた際、
誰も助けてくれない...



弁護士がサポート

当事者同士での
解決が難しい...



示談交渉サービス付き

ネット申込・年払・月払OK | クレジットカード払OK ※ネット申込みのみ

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

詳しい資料のご請求・お問合せは下記までお気軽にどうぞ

<代理店>

有限会社オフィスブレイン

〒060-0032

札幌市中央区北2条東3丁目2番

札幌セントラルビル3F

TEL: 011-207-2522 FAX: 011-207-2523

ZENCHI ぜんち共済株式会社
関東財務局長(少額短期保険)第14号
〒101-0032 東京都千代田区岩本町三丁目5番8号岩本町シティプラザビル5F

コールセンター 0120-322-150
ぜんち共済 検索 <http://www.z-kyosai.com/>



[2017年12月作成 17-T08668]

『どんな障がいがあっても、地域で普通に暮らしたい』

障がい者の願いを実現することが事業所協議会の
目的です。

私たちは、『経営』と『志』の統一を目指しています。

体力のある事業所も体力のない事業所も助け合います。

あなたの事業所の入会を待っています。

北海道手をつなぐ育成会 通所事業所連絡協議会

〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2・7(4F)

電話(011)251-0855/FAX(011)251-0804

E-mail: doikusei@air.ocn.ne.jp

★会員事業所紹介★

社会福祉法人ゆあみ会 生活介護事業所らいむ

〒068-0826 北海道岩見沢市東山町234番

電話(0126)38-4459 /FAX(0126)38-4464

Email: shiyakaihukus.yuamikai@olive.plala.or.jp

《感謝と愛情をもって個を重んじ、
豊かな人生・自己表現を支え、応援します》

◇生活介護
☆定員...20名

★主な作業

☆さをり織り

☆食品製造、加工

(鮭とば・クッキー・茶)

